

『源氏物語』の世界を〈楽しく〉〈美しく〉再現する

八重むぐらの会

活動の目的

当会は古典文学の生の魅力を、楽しく真面目に伝えていきたいと願って活動している。古典はタイムカプセル。ひらいてみると、人々の喜びや悲しみ、愛や嫉妬が、直接心に飛び込んでくる。ところが、大多数の人が、中学高校の古典の授業にはよい思い出がないという。現役の中学生高校生はどうだろうか。古文の品詞分解の先に、豊かで、魅力的な古典の世界があることを、かつて生徒であった人たちにも、今、生徒である人たちにも、伝えていきたいと考えている。

活動の内容及び経過

当会は、月1回の古典講座「くらしき古典部」で、物語の舞台を実地踏査したり、文楽の倉敷公演を、勉強会をして観に行ったりと、古典をアクティブに楽しんでいる。そんな中で、2015年秋、東京在住の舞台俳優、金子あいさんとの出会いがあった。林原美術館を会場にして催された公演「平家物語語りと波紋音」（大学女性協会主催）の観劇をきっかけに、翌2016年に平家物語の朗読ワークショップを依頼し、以後、朗読教室の開催や「平家物語語りと波紋音」の主催をおこなった。

「気ままに『源氏物語』」の企画は、出雲市の団体から『源氏物語』をテーマにした舞台をとの依頼が金子さんにあり、相談をうけた当会代表の野澤千佳子が脚本の原案を考え、金子さんとともに作りあげたのがはじまりである。2018年4月、出雲市で初演した3日後、倉敷市新溪園でも公演をおこなった。十二単を着た紫式部がコミカルに自作の『源氏物語』を語るという趣向がたいへん好評だったので、2019年2月には、倉敷市芸文館アイシアターで新作公演をおこなった。出雲市の舞台で共演した箏曲家の大月邦弘さんにも出演を依頼し、オリジナル曲の絶妙な演奏や巧みな効果音は言うまでもなく、狩衣姿でも舞台を盛り上げてもらった。

今年度、貴財団から助成金をいただいた「気ままに『源氏物語』2～紫のゆかり～」は、『源氏物語』の構想に深いかかわりをもつ藤壺を軸にしたストーリーである。前回同様、十二単を着た紫式部の語りと、狩衣姿の箏の演奏が主であるが、途中で、弘徽殿女御、王命婦、藤壺、光源氏ら物語中の人物を、主演の金子さんが衣装の早替えで演じるという新たな趣向を試みた。また、本公演の宣伝企画として、倉敷市大原本邸をお借りして、『源氏物語』の藤壺をテーマに、香道と金子さんの語りを同時に楽しむ催しをおこなった。



活動の成果・効果

来場者の反応はよく、アンケート用紙に感想をびっしりと記入してくださった方も多数いた。古典の生の魅力を楽しく伝えるという目的は、十分に果たせたと考えている。

今後の課題と問題点

観客数が少ないことが最大の課題である。公演日を平日に設定したことも、率直に言って失敗であった。チラシやポスターもできうる限り配布したが、当会の宣伝力不足は否めず、マスコミなどへの働きかけも弱かった。反省点は多い。

演劇の舞台は直接会場に足を運んでいただくことで成り立つものである。地方都市の岡山で公演を収支の面で成り立たせる難しさをよく耳にするが、プロの舞台を生で観る機会を提供し続けるためにも、来場者数を確保する努力を続けていかなくてはならないだろう。

貴財団の助成は、資金面の補助はもちろんだが、それ以上に、地道な文化活動を認めていただけたという自信になった。厚く感謝するとともに、引き続きご支援をお願いしたい。

新型コロナウイルスの感染拡大により、舞台公演に大きな制約がかかるようになった。演者と観客が場を共有する生の舞台の魅力には及ばないが、古典の魅力を楽しく伝えるという目的をかなえるため、百人一首のビデオ作成や語り舞台のライブ配信などの取り組みをはじめている。

- 代表者：野澤千佳子 ●所在地：倉敷市田ノ上
- TEL：080-1925-2294 ●E-MAIL：yae8mugura@gmail.com
- URL：https://www.facebook.com/yaemugura
- 設立年：2015年 ●メンバー数：10名